

入院患者における運転再開の現状について

桔梗ヶ原病院

○園原和樹，新井千尋，佐藤理恵，須田広樹，松塚翔司

【目的】平成 26 年に道路交通法が改正され、「一定の病気に係る免許の可否等の運用基準」により自動車運転に際して注意をすべき疾患・症状が明確化した一方で、運転可否の判断については現場の医療従事者にゆだねられているのが現状である。一方で、運転免許を取得した患者における運転再開の現状についての報告は少ない。今回、我々は入院患者における運転再開の現状についての調査を行ったので報告する。

【方法】2015 年 1 月 1 日から 12 月 31 日の 1 年間の間に、リハビリテーションを目的として他院より転院となった患者 335 名を対象とした。当院における運転再開プログラム（神経心理学的検査，視野検査，ドライブシュミレーター，教習所における実車運転の評価など）に準じたリハビリテーションを施行後に運転再開が可能となった患者についての検討を行った。

【結果】期間中に他院より転院となった患者の中で、疾患発症前に運転免許を取得しており運転再開の希望のあるものは 35 名（平均年齢 60.0 ± 13.5 歳，男性 27 名，女性 8 名）であった。リハビリテーション施行後に運転再開が可能となった患者は 14 名（運転再開率 40.0%）であり、内訳は若年者（64 歳以下）で運転再開率 66.6%，高齢者（65 歳以上）で運転再開率 11.7%と高齢者で運転再開率が低かった。入院の契機となった疾患は整形外科疾患 1 名，脳血管障害 34 名であった。当院転院時の MMSE は 27 ± 3.5 点であり、内訳は若年者で 28 ± 2.4 点，高齢者で 26 ± 2.7 点，疾患発症前に認知機能低下を指摘されていたものは 1 名であった。

【結語】運転免許取得者が入院リハビリテーションを施行後に運転可能と判断される割合は 40.0%であり、若年者で運転再開率が高かった。一方で高齢者における運転再開率は低く、今後は運転再開が困難となる要因についての更なる検討が必要と考えた。